

山田 貴子 議員

自主運行バスは

現状のままで良いのか

問 自主運行バスの乗客を増やすため、ラッピングバスにし、さらに、市内全バス業者を入札に参加させたらどうか。

答 今後の契約には、ラッピングバスの運行を条件に加えるなどの検討をしたい。また、様々な条件を満たす事業者であれば、入札に参加できるように検討したい。

大震災を市民の安全・

安心に活かすには

問 液状化現象が予想される山梨方面の対策はどのようにされているのか。

答 家庭においては、建物の耐震化や家具の固定を、確実に行うことが有効な対策となる。市のホームページや地域の学習会などを通して、市民への幅広いPRに努めていきたい。



乗客の増加を目指す自主運行バス

自然エネルギー対策として

有効な政策は

問 情報・通信業者が提唱しているメガソーラーを、市として誘致すべきと考えるが。

答 新たなエネルギー政策として非常に有効であり、積極的に誘致に取り組んでいきたい。県との連携を密にし、国からの情報も収集しながら、候補地の検討等の準備を進めていきたい。

高橋 美博 議員

市長の原発への認識を問う

問 福島第一原発の事故の惨状を目の当たりにして市長の認識はどう変わったのか。

答 今回の事故で人間が放射能をコントロールできないことが判明し、今の技術水準では安全でないと考ええる。安全であるという認識が、明らかに安全でないという認識に変わったことは事実である。

問 世界一危険といわれる浜岡原発は永久停止とすべきと考えるが。

答 市民が安全だという認識が得られない限り、運転再開をすべきでないと考ええる。福島の問題が解決され、原因究明ができ、対策がなされたとき、初めて浜岡原発の再開について検証し議論できる。そういう意味では、浜岡原発の運転再開は非常に難しい事態に現在はあるとの認識である。

本市の原発事故への備えは

問 市民の原発事故・放射能汚染への不安が高くなっている。市独自の観測実施、計測器の配備、安定ヨウ素剤の備蓄を求めらるがどうか。

答 ヨウ素剤の備蓄、簡易計測器の配備は、早急に検討したい。市の防災計画の中に原子力災害に対する備えに関する記載についても、議論していく必要があると考える。



消防署に配備されているポケット線量計